

環境活動レポート

2010年度版

(2009年3月21日～2010年3月20日)



株式会社サンエム

環境管理事務局

作成	承認

発行：2010年（平成22年） 5月作成



環 境 方 針

「 基 本 理 念 」

株式会社サンエムの目指すものは、資源の有効活用をはじめとする地球環境の保護。サンエムは美しい地球を、美しい自然をそのまま次世代に残したいと願っております。この願いをカタチにするためサンエムは社会環境の保全に役立つ廃油のリサイクル事業を通して、さらなる技術開発を進め、経済の発展と自然の調和も追求して、美しい地球・地球環境を守っていきます。この実現のために、次の通り行動指針を定めて取組みます。

「 行 動 指 針 」

1. 株式会社サンエムは、環境関連の法規制及びその他の要求事項を遵守します。
2. 株式会社サンエムは、産業廃棄物である廃油等の収集運搬、並びに中間処理・再生油生成及び再生油販売業務において環境保全の重要性を認識し、全ての活動を通じて環境負荷の低減に努め、継続して推進します。当社から排出する産業廃棄物は、処理委託先においてエマルジョン燃料及び固形燃料化し、その再生利用を図り「ゼロエミッション」に努めます。特に以下の項目を環境マネジメント重点テーマとして取組みます。
 - (1) 車輛燃料・電力・水の使用量の削減及び産業廃棄物排出量の削減。
 - (2) 施設周辺の環境美化、騒音軽減、水質汚濁防止。
3. この環境方針は全従業員に周知徹底し、環境意識の向上に努めます。
4. この環境方針は一般に公表します。
5. この環境方針は定期的に見直しを行います。

平成19年3月21日（見直し）

株式会社サンエム

代表取締役

1. 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 サンエム

代表取締役社長 谷口 幸三

2) 所在地

兵庫県宍粟市山崎町田井631-1

3) 創業・資本金・従業員数

創業：平成9年4月1日 資本金：1,000万円 従業員数：11名

4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者：取締役業務部長 稲田幸夫

担当者：環境管理事務局 取締役業務部長 稲田 幸夫

連絡先 電話 0790(62)1996

5) 事業内容

・産業廃棄物収集運搬業（廃油・汚泥）

・産業廃棄物中間処理業（廃油）

・再生油販売業

・タンク清掃・流出油処理

・ミネラルウォーター販売

} 今回のEA活動をベースにして展開を図り、
次回更新時に審査対象事業に追加の予定

6) 事業規模

活動規模	年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	単位
総製品生産量		5,275	5,003	3,938	4,002	4,341	4,521	KL
収集運搬及び中間処理量		5,358	5,149	4,876	5,047	4,805	4,886	KL
売上高		172	166	165	203	217	178	百万円
従業員数		9	10	10	11	11	10	人
本社工場敷地面積		3,058	3,058	3,058	3,058	3,058	3,058	m ²
タンクローリー等作業車輛		11	11	12	12	11	10	台
原料・製品タンク		4	4	4	4	4	4	基
自動遠心分離機		3	3	3	3	3	3	基

許可の内容

事業計画の概要	事業の範囲	許可番号	許可年月日	有効年月日	自治体名
産業廃棄物中間処理業	廃油	第02826049927	H17年8月10日	H22年8月9日	兵庫県
産業廃棄物収集運搬業	廃油	第02806049927	H19年9月17日	H24年9月16日	兵庫県
	廃アルカリ	第7002049927	H19年8月25日	H24年8月24日	姫路市
	金属くず	第690004927	H19年10月15日	H24年10月14日	神戸市
	廃プラスチック類	第9906049927	H19年9月17日	H24年9月16日	西宮市
	汚泥	第7109-049927	H19年9月18日	H24年9月17日	尼崎市
産業廃棄物収集運搬業	廃油・汚泥・廃アルカリ	第2700049927	H16年7月6日	H26年7月5日	大阪府
産業廃棄物収集運搬業	廃油	第6600049927	H16年7月12日	H26年7月11日	大阪市
		第6800049927	H16年7月2日	H26年7月1日	東大阪市
		第6700049927	H16年7月1日	H26年6月30日	堺市
産業廃棄物収集運搬業	廃油・汚泥・廃アルカリ 廃プラスチック・金属屑	第3101049927	H18年11月10日	H23年11月9日	鳥取県
特別管理 産業廃棄物 収集運搬業	廃油（揮発油類）	第02856049927	H19年6月5日	H24年6月4日	兵庫県
		第7052049927	H19年6月1日	H24年5月31日	姫路市
		第6950049927	H19年5月30日	H24年5月29日	神戸市

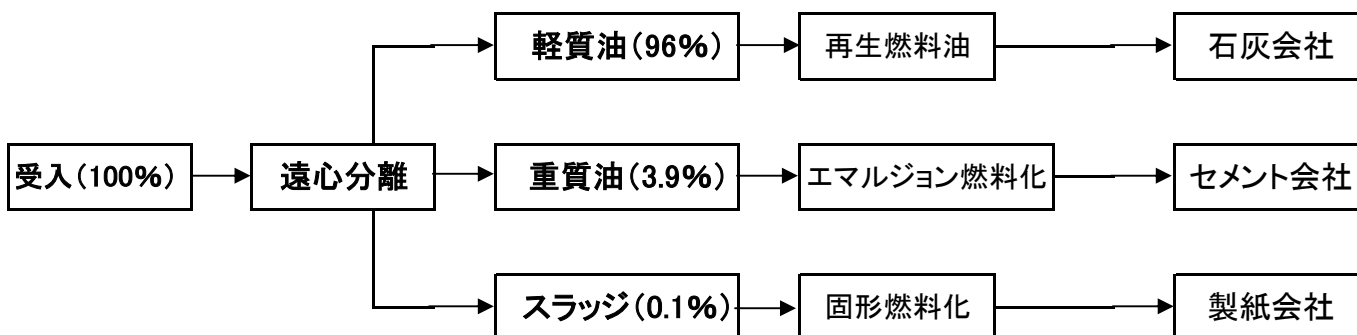
廃油回収車

	年式	有効期間の満了する日
12KLタンクローリー	平成16年	平成23年2月11日
6KLバキュームローリー	平成12年	平成22年12月12日
6KLバキュームローリー	平成14年	平成22年12月19日
5KLバキュームローリー	平成20年	平成23年4月22日
4KLバキュームローリー	平成22年	平成24年5月16日
3Tダンパー	平成9年	平成23年6月3日
3Tダンパー	平成18年	平成22年8月24日

主な施設

処理施設の種類の	廃棄物の種類	処理能力	処理方式
油水分離機（IHI）	廃油	55m ³ /日（連続9時間）	横型遠心分離
油水分離機（IHI）	廃油	40m ³ /日（連続9時間）	横型遠心分離
油水分離機（三菱化工機）	廃油	53m ³ /日（連続9時間）	立型遠心分離

廃油処理工程図



（ゼロエミッションを目指す）

廃棄物処理料金 現物・性状確認後見積りを作成し、料金を提示する。

2009年度 環境目標維持管理設定書

作成日：17年12月21日

改訂日：21年3月21日

承認	確認	作成
社長	環境管理責任者	事務局

環境方針 (キーワード)	環境目標項目	責任部門 責任者	基準値 基準年度		年度目標・達成手段			
					2007年度(19年度)実績	2008年度(20年度)実績	2009年度(21年度)目標	20210年度(22年度)目標
省エネルギー	生産量当りの電力使用量削減	製造部 福田滋	11.2 kWh 2008年度	目標	16.5 kWh(目標) 16.3 kWh(実績)	16.3 kWh(目標) 11.2 kwh(実績)	10.98 kWh(目標) 10.4 kwh(実績)	10.75 kwh (目標) 対基準値 △4.0%
				達成手段		節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化	節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化	節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化
省エネルギー	廃油回収量当りの軽油使用量削減	業務部 福本隆博	12.6 L 2008年度	目標	12.5 L(目標) 12.6 L(実績)	12.4 L(目標) 12.6 L(実績)	12.47L (目標) 13.4 L(実績)	12.35L (目標) 対基準値 △2.0%
				達成手段		エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 低燃費車に更新1台	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 低燃費車に更新1台	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化
温室効果ガスの削減	軽油・重油・ガソリン・IPGの使用量削減	全部門 稲田幸夫	340,941 (kg-CO ₂) 2008年度	目標		340,941(kg-CO ₂)実績	337,532(kg-CO ₂)/年目標 379.115(kg-CO ₂)実績	334,122(kg-CO ₂)/年目標 対基準値 △2.0%
廃棄物削減	廃油回収量当りの産業廃棄物削減(廃油・スラッジ)	営業部 福本隆博	54.0 L 2008年度	目標	79.1 L (目標) 22.2 L (実績)	79.0 L(目標) 54.0 L(実績)	53.46 L(目標) 60.2(実績)	52.92 L(目標) 対基準値 △2.0%
				達成手段		良質廃油の回収	良質廃油の回収	良質廃油の回収
省資源	水資源投入量の削減(上水・井戸水)	製造部 福田滋	946 m ³ 2008年度	目標	1,512 M3 (目標) 976 M3 (実績)	972 m ³ (目標) 946 m ³ (実績)	960 m ³ (目標) 2,156m ³ (実績)	927 m ³ (目標) 対基準値 △2.0%
				手段		節水運動の展開 漏水チェック	節水運動の展開 漏水の利用	節水運動の展開 漏水チェック
周辺美化	美化・衛生	事務 岸根宇多子		目標 手段	年3回敷地内と周辺の草刈(実績)	草刈に加えて、溝掃除	草刈・溝掃除継続	草刈・溝掃除継続
騒音規制	騒音緩和	製造部 福田滋		目標 手段	稼働中、工場シャッターをできるだけ閉める	常時シャッターを閉める	常時シャッターを閉める	常時シャッターを閉める
水質汚濁防止	汚濁水流出の防止	製造部 福田滋	定期チェック	目標 手段	専門業者による定期的検査(実績)	専門業者による定期的検査(実績)	専門業者による定期的検査 自主検査毎日(透明度・臭い)	専門業者による定期的検査

2. 2009年度環境目標取組みの結果

様式2-02「環境への取組みの自己チェックリスト」(2005年度調査)の結果から、当社の業務に係る環境負荷の主なものは総エネルギー投入量、総廃棄物投入量、水資源投入量、温室効果ガス排出量、廃棄物等総排出量及び総排水量が該当する。よって、以下の項目について環境負荷の軽減に取り組んだ。なお、数量的な把握は困難ながら、環境維持の観点から、美観・騒音・水質についても取り組んだ。

①総エネルギー投入量

総エネルギー投入量について、当社の場合特にCO2削減に関連して軽油の使用量と電力使用量が問題になるが、それらは概ね仕事量(製品生産量・廃油回収量)がそのまま反映されるので、一概に電力・軽油の削減を追求することには困難な面もある。効率的な車の運行と、効率的な工場稼働が主眼となる。特に車の運行に関しては他社との廃油回収競争を避けるため、06年10月より営業専門職を置き、回収先との密接な関係を構築することに務め、契約書による取引を進めた結果、徐々に効果が出てきている。ただ、遠方の納入先の注文が多いと、どうしてもよい結果は出ない。

②総物質投入量

回収した廃油が総物質投入量の殆どである。

③廃棄物排出量

廃油を油水分離して再生油を取った後に残る「廃油」「スラッジ」が産業廃棄物で、それらはともに他社において助燃材として再利用されている。従って排出量の多少や増減は大きな問題ではない。自社でリサイクルしエマルジョン燃料化の計画を進めて、廃棄物排出ゼロを目指す。

④水資源投入量

昨年8月に、水害のために3ヶ月間は水使用量が大幅に増えているが、他の月は削減目標に近い数値が出ている。来期には水道メーターを増やして更に使用量の削減に努める。

⑤構内及び周辺の美化・騒音規制・汚濁水流出防止

周辺美化と汚濁水流出チェックにはこれまで同様定期的に取り組む、良好な結果を出した。

騒音・振動の対策は、これまでと同様に工場のシャッター及び扉を閉める。

3. 2009年度 環境目標達成活動の実績

計 画 の 内 容	評 価 (結 果 と 今 後 の 方 向)
<p>1) 総エネルギー投入量、温室効果ガス排出量削減</p> <p>(1) 電力の抑制</p> <p>① 製品生産量当りの単位電力量の削減(効率よい生産)</p> <p>② 室内空調は夏は28度±1度、冬は22度±1度とする</p> <p>③ 昼休みの照明消(減灯)</p>	<p>基準 11.2 kWh (製品生産量 1KL当り)</p> <p>目標 10.98 kWh (1.0%減)</p> <p>実績 10.53 kWh 達成率: 104.3%</p> <p>10.98kWh以下月が年度前半達成していたが、12月以降は目標値を超える月が続いた。暖房の設定温度と工場の生産効率を図る。</p>
<p>(2) 車両燃料の効率化(軽油使用量の削減)</p> <p>① アイドリングをせず、アクセルむらのない運転</p> <p>② 社用車の効率的な配車と運行ルート</p>	<p>基準 12.6L (廃油回収量 1KL当り)</p> <p>目標 12.47L (1.0%減)</p> <p>実績 13.4L 達成率: 98.0%</p> <p>年度前半は目標達成の月が多かったが、後半は達成できてない月が多かった。今後は契約書による取引を進めて無駄な競争を避け、効率よい車の運行を図る。</p>
<p>(3) 温室効果ガスの削減 (軽油・重油・ガソリン・LPGの使用量削減)</p>	<p>基準 340,941 (kg-CO₂)/年目標</p> <p>目標 337,532 (kg-CO₂)/年目標</p> <p>実績 339,115 (kg-CO₂) 達成率: 99.5%</p> <p>今年から温室効果ガスの削減目標を掲げた結果、目標までには後僅かであった。今後も回収効率と生産効率を上げる努力をする。</p>
<p>(4) 産業廃棄物排出量削減</p> <p>① 不良廃油は極力持ち込まない。</p>	<p>基準 54.0L (廃油回収量 1KL当り)</p> <p>目標 53.46L (1.0%減)</p> <p>実績 60.2L 達成率: 88.8%</p> <p>このまま維持管理に努める。今後、自社で補助燃料(エマルジョン化)出来る様に努力して行く。</p>
<p>2) 水資源投入量削減</p> <p>① デカンターの洗浄水は、流量・時間を最小限にする</p> <p>② こまめに節水する</p> <p>③ 使用水の再利用</p>	<p>基準 946m³</p> <p>目標 937m³ (1.0%減)</p> <p>実績 1,927.7m³ 達成率: 49.1%</p> <p>目標には達成しなかったが、水害の影響(1200m³)が大であり、今後も節水に努める</p>
<p>3) その他</p> <p>① 環境に配慮した作業(騒音緩和・汚濁水流出防止)</p> <p>② 敷地内及び周辺環境美化につとめる。</p>	<p>年3回、敷地周辺の美化活動を実施した。業者による放流口水質検査を9月と3月に実施した。n-ヘキサンは0.5/L以下で、BOD・CODはともに0.004g/Lを超えていない。透視度は毎日測定。30cm以上である。デカンターを被う工事により騒音は10デシベル近く軽減された。今後もシャッター等閉めて軽減に努める。</p>

2010・2011年度 環境目標維持管理設定書

作成日: 22年3月21日

改訂日: 22年3月21日

承認	確認	作成
社長	環境管理責任者	事務局

環境方針 (キーワード)	環境目標項目	責任部門 責任者	基準値 基準年度	年度目標・達成手段				
				2008年度(20年度)実績	2009年度(21年度)実績	2010年度(22年度)目標	2011年度(23年度)目標	
省エネルギー	生産量当りの電力使用量削減	製造部 福田滋	11.2 kWh 2008年度	目標	16.3 kWh(目標) 11.2 kWh(実績)	10.98 kWh(目標) 10.40 kwh(実績)	10.86 kWh(目標) 対基準値 △3.0%	10.75 kWh(目標) 対基準値 △4.0%
				達成手段	節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化	節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化	節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化	節電運動の展開 冷暖房温度の再設定 工場稼働の効率化
省エネルギー	廃油回収量当りの軽油使用量削減	業務部 福本隆博	12.6 L 2008年度	目標	12.4 L(目標) 12.6 L(実績)	12.47 L(目標) 13.4 L(実績)	12.47 L(目標) 対基準値 △1.0%	12.35 L(目標) 対基準値 △2.0%
				達成手段	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 低燃費車に更新1台	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 低燃費車に更新1台	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化
温室効果ガスの削減	軽油・重油・ガソリン・LPGの使用量削減	全部門 稲田幸夫	340.941 (kg-CO ₂) 2008年度	目標	340,941(kg-CO ₂)実績	337,532(kg-CO ₂)/年(目標) 379,115.0(kg-CO ₂)実績	337,532(kg-CO ₂)/月(目標) 対基準値 △1.0%	334,122(kg-CO ₂)/月(目標) 対基準値 △2.0%
				達成手段		エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 生産量の効率化	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 生産量の効率化	エコドライブ運動の展開 運転経路の効率化 生産量の効率化
廃棄物削減	廃油回収量当りの産業廃棄物削減 (廃油・スラッジ)	営業部 福本隆博	54.0 L 2008年度	目標	79.0 L(目標) 54.0 L(実績)	53.46 L(目標) 60.2 L(実績)	53.46 L(目標) 対基準値 △1.0%	52.92 L(目標) 対基準値 △2.0%
				達成手段	良質廃油の回収	良質廃油の回収	良質廃油の回収	良質廃油の回収
省資源	水資源投入量の削減 (上水・井戸水)	製造部 福田滋	946 m ³ 2008年度	目標	972 M3(目標) 946 M3(実績)	937 m ³ (目標) 2,146 m ³ (実績)	937 m ³ (目標) 対基準値 △1.0%	927 m ³ (目標) 対基準値 △2.0%
				手段	節水運動の展開 漏水チェック	排水の利用	漏水のチェック	漏水のチェック
周辺美化	美化・衛生	事務局 岸根宇多子		目標 手段	草刈に加えて、溝掃除	草刈に加えて、溝掃除	草刈・溝掃除継続	草刈・溝掃除継続
騒音規制	騒音緩和	製造部 福田滋		目標 手段	常時シャッターを閉める	常時シャッターを閉める	常時シャッターを閉める	常時シャッターを閉める
水質汚濁防止	汚濁水流出の防止	製造部 福田滋	定期チェック	目標 手段	専門業者による定期的検査(実績)	専門業者による定期的検査 自主検査毎日(透視度・臭い) (実績)	専門業者による定期的検査	専門業者による定期的検査

3. 2009年度 環境目標達成活動の実績 (2009年4月～2009年6月まで)

計 画 の 内 容	評 価 (結 果 と 今 後 の 方 向)
<p>1) 総エネルギー投入量、温室効果ガス排出量削減</p> <p>(1) 電力の抑制</p> <p>① 製品生産量当りの単位電力量の削減(効率よい生産)</p> <p>② 室内空調は夏は28度±1度、冬は22度±1度とする</p> <p>③ 昼休みの照明消(減灯)</p>	<p>基準 11.2 kWh (製品生産量 1KL当り)</p> <p>目標 10.98 kWh (2.0%減)</p> <p>実績 10.33 kWh 達成率: 105.7%</p> <p>今年度から基準値が変更しているが、僅かではあるが達成できた、いい結果だと思う。</p> <p>このまま効率良い生産を維持する。</p>
<p>(2) 車輻燃料の効率化(軽油使用量の削減)</p> <p>① アイドリングをせず、アクセルむらのない運転</p> <p>② 社用車の効率的な配車と運行ルート</p>	<p>基準 12.6L (廃油回収量 1KL当り)</p> <p>目標 12.47L (1.0%減)</p> <p>実績 13.93L 達成率: 89.5%</p> <p>今年度から基準値が変更しているが、前年度より達成率が落ちているので回収・営業共運行経路等、効率を上げる様に努める。</p>
<p>(3) 二酸化炭素の抑制 (軽油・ガソリン・重油・LPGの使用量削減)</p> <p>① アイドリングをせず、アクセルむらのない運転</p> <p>② 回収車・営業車の経路の効率化</p> <p>③ 工場の生産量効率を高める</p>	<p>基準 28,411.8(kg-CO₂)/月平均</p> <p>目標 28,127.7(kg-CO₂)/月平均</p> <p>実績 32,222.3(kg-CO₂)/月平均</p> <p>達成率: 87.3%</p> <p>今年から二酸化炭素抑制に取り組んでいるが、昨年からの不景気によってどの部門も作業効率が悪くなってきているので目標達成には難しと思うが努力をして行く。</p>
<p>3) 産業廃棄物排出量削減</p> <p>① 不良廃油は極力持ち込まない。</p>	<p>基準 54.0L (廃油回収量 1KL当り)</p> <p>目標 53.46L (1.0%減)</p> <p>実績 61.26L 達成率: 87.73%</p> <p>基準値の見直しで達成出来ていないが、今後自社で補助燃料(エマルジョン化)出来る様に努力して行く。</p>
<p>2) 水資源投入量削減</p> <p>① デカンターの洗浄水は、流量・時間を最小限にする</p> <p>② こまめに節水する</p> <p>③ 使用水の再利用</p>	<p>基準 78.1KL/月</p> <p>目標 77.32KL (1.0%減)</p> <p>実績 81.17KL 達成率: 103.6%</p> <p>目標には後僅かに達成できなかった。今後もドレン排水の再利用を続けるとともに、節水に取り組む。</p>
<p>3) その他</p> <p>① 環境に配慮した作業(騒音緩和・汚濁水流出防止)</p> <p>② 敷地内及び周辺環境美化につとめる。</p>	<p>5月に草刈り実施</p> <p>水質検査は未実施</p>

4. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

(1)適用となる主な環境関連法規

廃棄物及び清掃に関する法令、水質汚濁防止法、消防法、フロン回収・破壊法、下水道法、家電リサイクル法、騒音規制法

(2)違反訴訟等

環境関連法規の順守状況について定期評価をした結果、法規制からの逸脱は認められなかった。過去3年間、関係機関等から違反について特に指摘はない。

また、訴訟等もなかった。

5. 教育・訓練の実施

(1)法律遵守、緊急事態への準備と対応等の教育・訓練は年間スケジュールに基づき実施

(2)技術・資格取得の支援

(現在の取得状況)

資 格	種 類	
危険物取扱者免除	第4類乙種	9名
酸素欠乏作業主任	第2種	2名

6. 環境関連文書及び記録の作成・整理

(1)環境への負荷の自己チェックの結果及び環境への取組みの自己チェックの結果

(2)環境目標維持管理設定書・環境活動実施計画書・実施データ

7. 代表者の見直し

(1)環境システムの機能及び環境活動の活動状況から評価を行った。(実施計画書に記載)

(2)評価結果に基づいて、環境方針・環境目標・環境活動計画及び環境経営システムの見直しを行い、必要な指示を行った。

【参 照】 ホームページ

<http://www.san-m.com>

洪水被害復旧状況

(平成21年10月12日現在)

事務所

従業員詰所



通路

工場



倉庫

ローリー駐車場



工場表



工場裏 (復旧中)



従業員駐車場 (復旧中)



事務所前 (復旧中)



緊急事態(洪水被害)平成21年8月10日未明 被害状況

事務所



従業員詰所



倉庫内



ローリー駐車場



通路



工場内



工場表



工場裏



従業員駐車場



事務所前

